様式第３号

令和３年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	８	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校 長 名	高橋　和彦

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	**命を守る意識をもち自ら行動しようとする生徒の育成**	①発災時に自分で判断して行動したいと答える生徒 80%以上 ②安全計画に沿って安全意識につながる指導を行っている教員 80%以上	①生徒アンケート結果 84% ②教員アンケート結果 100%	A	・総合的な探求の時間での防災教育の位置付け２年目で、体験的な活動、思考過程の意図的な設定等の授業の工夫が、防災意識の向上や、防災につながる行動の具体的な理解等につながった。 ・年間を通じて安全計画に沿った安全管理等の実施が、教員の安全意識につながった。 ・「共助」の防災意識の更なる伸長、地域防災への参加等の、家庭と連携した防災の取組につながるようにしたい。 ・防犯の視点等、更に学校安全計画の見直しを図る。
安全	自他を尊重し、豊かな心を育む人権教育と道徳教育の推進	①人権意識の高揚や道徳の教育の推進によって生徒の豊かな心を育んでいると感じる教員 80%以上 ②自分の良さが分かり、安心して学校生活を送っている生徒及び保護者 80%以上 ③個別の指導計画の目標を生徒等と共有し、生徒の自己理解を深めることにつなげた教員及び保護者 80%以上	①教員アンケート結果 100% ②生徒アンケート結果 93% 保護者アンケート結果 96% ③教員アンケート結果 100% 保護者アンケート結果 95%	A	・コロナ禍に対応した人権教育の実施、ＳＨＲでの自他の振り返り、学校行事等での仲間意識の醸成、進路に関わる自己の良さに注目する指導の工夫等により、生徒が自己の「良さ」の認識を強めたことなどが成果につながった。 ・個別の対応が必要な生徒への丁寧な指導と共に、社会参画で求められる自己表現の力を引き出す取組の工夫を行いたい。 ・今後、道徳の全体計画的に沿った指導の充実を図る。
安全	安全で安心な生活のための生徒及び学校の、自己管理能力の向上	①危機管理への意識を高めた教員 80%以上 ②心や体の成長に関する指導を配慮しながら生徒に接している教員 80%以上 ③自身の健康への自己管理能力が高まったと感じる生徒 80%以上	①教員アンケート結果 100% ②教員アンケート結果 100% ③生徒アンケート結果 82%	A	・毎月の保健指導等や感染症予防のための健康観察等への取組が、自主的な行動へ習慣化したことが、健康や安全に関する生徒の自己管理意識につながった。 ・定期的なシミュレーション訓練等を継続し、更に危機管理意識を高め、危機管理体制の実践力につなげたい。

様式第３号

専門	生徒の主体的な学びを深め、生きる力の育成につなげる授業の実践	①学び、考えることが楽しいと答える生徒 80% ②生徒の考える姿を引き出していると感じる教員 80%以上	①生徒アンケート結果 94% ②教員アンケート結果 100%	A	・総合的な探求の時間で、観点別の目標設定や展開を工夫した授業実践の校内授業研究の取組において、教員間で生徒の考える姿を引き出すための働きかけの必要性を再認識できた。学習場面で生徒が自分の考えをもち、互いにやり取りしようとする学習の姿勢につなげることができた。 ・新学習指導要領の本格実施に向け、全ての教育活動において授業改善の視点を継続していきたい。
専門	**生徒自身が働くことの意義を感じ、社会自立に向けた知識と意欲を高める教育の充実**	①作業学習や職業科の実践により生徒に力が身についていると感じる教員 80%以上 ②学びの振り返りで自らの成長が実感できる生徒 80%以上	①教員アンケート結果 100% ②生徒アンケート結果（自身の成長の記述）96%	A	・実習日誌の様式の工夫により、職場実習を学校生活での学びの自己評価の場として位置付けることができた。実習による他者評価を意識させることが、生徒が目標を我事として再認識することにもつながった。また、長所を生かした取組を促すことが、「自分もできる」というような自己有用感や、やりがいをもった取り組み姿勢につながった。 ・個々の生徒の目標（個別の指導計画の目標）を職場実習、作業学習の個別の目標とつなげることで、自己を振り返る場面が増え、自己理解を深めることにつながった。また、教員間での指導のねらいの共有や具体化や促された。 ・目標に照らした評価をどう改善に生かすか、その為の支援の工夫も求められる。作業学習、職業科の年間計画等を見渡した目標の設定等についてもさらに検討が必要。 ・職場実習期間中の家庭での見守り等、一定の家庭からの協力を得たが、３年間を見通した連携の強化を図りたい。

様式第３号

専門	ＩＣＴ等を活用した、生徒が主体的に取り組む授業等の実践	①自らの情報活用能力が向上した教員 80％以上 ②教材等が分かりやすく学習が楽しいと感じた生徒 80％以上	①教員アンケート結果 82％ ②生徒アンケート結果 94%	A	・各教室のプロジェクターの常時設置等の整備により、視聴覚機器の活用が促された。コロナ禍でのZoom活用等の場を契機に、オンラインシステムを活用するという学習の選択の幅を広げることができた。 ・更なる端末の導入による管理面での整備、活用の工夫や、必要な情報教育についての再考が迫られる。
連携	田方農業高校や地域との関係を生かした共生・共育の実践による、共生社会形成の推進	①田農との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 80%以上 ②田農生との共生・共育の良さを実感する教員 80%以上 ③共生・共育の実践の成果についてＨＰ等での発信　年 20 回以上 ④ＨＰへの関心を高めた保護者の割合 50％以上	①生徒アンケート結果 87% ②教員アンケート結果 100% ③ＨＰ等更新 20 回、田方三島地区特別支援教育連絡会での学校公開１回、市町障害者週間イベントでの情報提供３箇所、函南ゲートウェイイベント参加での発信１回 ④保護者アンケート結果 61％	A	・コロナ禍で計画の変更もあったが、できる範囲の取組の中でねらいが達成された。 ・引き続きコロナ禍対応での活動の工夫、田農との共同授業等で生徒自身が感じる学びや成長を生かした取組の工夫等をしながら、実践を継続していきたい。 ・ＨＰ等、更新への取組強化や発信の工夫が必要。
連携	外部専門家及び校内の人材資源の有効活用等による教育活動の活性化	①外部人材との連携活用年 15 回以上	①外部人材活用 14 人年間のべ 34 回（ビジネスマナー指導３回、清掃作業指導６回、サッカー指導７回、園芸協働作業 10 回、防災教育、主権者教育、消費者教育、薬学講座、思春期講座、スマホ教室、救急法講習、租税教室、オリパラ事業、貼り絵アート　各１回）	A	・コロナ禍により、外部とのやりとりが制限されたが、学習場面で効果的に専門家を活用することを、教育効果につなげることができた。 ・可能な範囲で継続、拡大したい。

様式第３号

連携	**関係機関や地域とのつながりを生かした学校のセンター的役割の向上**	①伊豆の国特別支援学校との連絡会議　２回以上 ②地域での特別支援教育講演会の開催 ③函南町等地域への情報発信（進路相談用の紹介映像等の作成と配布、「キャリアパスポート」の活用 等）	①今年度は現状把握のみ会は実施せず。（次年度に延期） ②はごろも『夢』講演会 Zoom 開催で参加者 65 人 ③函南町地域福祉教育実践連絡会への参加、各中学校から「キャリアパスポート」活用状況についての情報収集を行った。	B	・新規の函南ゲートウェイとの連携で、作業学習での活動の発信の場の開拓につなげた。 ・講演会開催では、小・中・高校教員から多くの参加があり、地域からニーズのあるテーマで特別支援教育の理解啓発に還元できた。また、事例の相談のケースにもつなげた。 ・中学校からの「キャリアパスポート」の情報を引き継ぐための様式の工夫を図る。更なる情報収集と、進路指導への情報提供を中心に、伊豆の国特別支援学校とも連携した支援を検討したい。
チーム	**教育効果等を「働きがい」につなげる、チームとしての業務改善の推進**	①「共に育てる自立と輝き」の視点からの「働きがい」を求め、チームの一員としての業務改善に努めたと感じる職員 80%以上	①教員アンケート結果 88%	B	・職員アンケートから「働きがい」の意識につなげる取組を試みた。教育活動全般の取組から、一定のモチベーションにつながっているが、業務改善の具体的な改善に大きな効果にはつながっていない。 ・業務改善について、チームとして具体的な目標の設定とその効果を共有できる取組を行いたい。
チーム	学校運営に関わる事務手続き、予算の計画的な執行等、本校との連携の強化	①計画的な予算執行を意識した教員 80%以上 ②本校事務等との情報共有されるシステムがあると感じる教員 80%以上	①教員アンケート結果 82% ②教員アンケート結果 80%	A	・掲示板を活用した全職員に向けた事務室からの定期的な連絡や情報提供、「分校本校連絡票」を用いての情報共有の取組、また、必要に応じて本校事務職員に来校してもらい実情の把握や、職員会議での予算計画等のガイダンスを依頼すること等により、事務室との連携体制を進めることができた。 ・更に定期的な情報交換等、事務室とつながる場を増やすことで連携体制を強化したい。